

# 奈良県のがん医療の「見える化」について

県では、第3期奈良県がん対策推進計画の基本理念である「がんにならない、がんになっても安心できる奈良県」の実現に向け、各種がん対策の取組を進めているところです。

その一環として、がん登録や診療に関するデータを活用して、昨年度から「がん医療の見える化」に取り組んでいます。

奈良県のがんの罹患や死亡の状況、診療件数、5年相対生存率などを、がん種別や医療圏別に明らかにすることにより、**がんと診断された患者やご家族の方々に**がん診療を実施する医療機関を選択する際の一助になればとの思いでデータを分析し、報告書を作成しています。

また、**がん診療に携わる拠点病院等の医療従事者の方々に**向けては、それぞれの病院における、がん種別の診療実績などにより、相対的な強みや弱みを知っていただき、がん医療の質の向上に取り組んでいただく際の資料としてご活用いただければと考えています。

さらに、地域ごとの罹患や死亡の状況、診療実績などから、特徴的な傾向を見いだせる場合があり、**市町村の保健医療行政に携わる方々において**、今後のがん対策の参考資料としてご活用いただきたいと考えております。

以下に、「がん診療情報報告書」と「地域別がん対策報告書」の概要をお示ししますので、参考にしてください。

なお、この報告書をご活用いただく際にご留意していただく事柄がありますので、まず最初にそれを読んだうえで、ご活用をお願いします。

## ◆最初にお読み下さい◆

### ◆活用にあたっての留意事項

#### ①使用したデータは以下のとおりです

- ・今回の分析で使用したデータは、がんと診断された時に登録されたデータを拠点病院等から任意に提出していただいた情報を主体とした「地域がん登録データ」で、データの精度が国内基準・国際基準を満たした2011～2015年のものです。
- ・県内には、がん診療の拠点病院として、国が指定している拠点病院等が6病院と県が指定している連携支援病院が3病院あります。そのうち、国指定の地域がん診療病院である南奈良総合医療センターは2016年に開院されたため、今回分析した病院別のデータは、8病院の結果となっています。
- ・このデータは、拠点病院等から任意に提出していただいたものであるため、登録漏れ等が存在しており、分析結果には限界があります。

#### ②秘匿データがあります

- ・がんの種類（希少ながん）によっては、県全体での件数が少ない場合があります。また、病院別や市町村別にデータを細分化することにより、件数が10件未満のものが生じてくる場合があります。これらの場合、患者が特定される可能性がありますので、個人情報保護の観点から、報告書には一定のルールでデータを秘匿する処理を行っています。

#### ③病院の優劣やランキングを示すものではありません

- ・がん種別ごと、病院ごとの診療件数や5年相対生存率が集計結果として明らかになっていますが、2011～2015年の現状をそのまま集計しているもので、各病院の優劣の評価をしているものではありません。特に、5年相対生存率は、様々な要因が影響を与えており、診療件数と必ずしも相関関係にはありません。また、がん種ごとの5年相対生存率は、各患者の方々にとって、将来予測をするものでもありません。

## ◆用語の説明

- ・**地域がん登録**：「がん登録」とは、毎年、どのくらいの方ががんと診断されているか、また、治療やその後の経過はどうなっているかを情報収集し、整理・解析する仕組みのこと。「地域がん登録」は、奈良県が実施主体となり、2009年罹患症例から、県内に住所を有するものを対象に、拠点病院等の協力の下に任意でデータを収集しています。
- ・**がん拠点病院等**：国の「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」等に基づく診療体制、治療件数などの指定要件を充足している病院で、県内では、国が指定している拠点病院等6病院、県が指定している連携支援病院3病院の計9病院をいいます。
- ・**5年相対生存率**：がんと診断されてから5年後に生存している人の割合で、がん以外の死因によって死亡する確率を補正した生存率のこと。100%に近いほど治療で生命を救えるがん、0%に近いほど治療で生命を救いがたいがんであることを意味します。

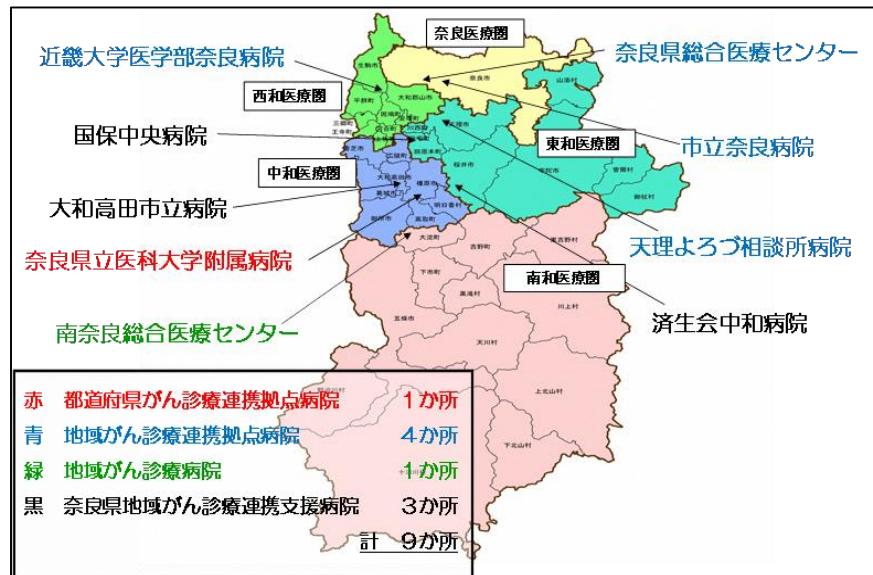
## 1. がん診療情報の見える化について（がん診療情報見える化推進事業報告書）

### ◆ この報告書でわかること

- ・県内でがん診療を行う拠点病院ごとに、がん種別のがん診断件数、患者の年齢構成登録時の進行度、治療実績、5年相対生存率などを集計・分析しています。
- ・特に、地域がん登録データの精度が向上したことから、**今回、県で初めて5年相対生存率を分析し、公表**しています。〔がん診療情報 報告書 P.10～40〕
- ・がんと診断された際に、どこで治療を受ければよいか、緩和ケアの体制はどうかなど、**治療や病院を選ぶ際に役立つよう**、表やグラフで整理しています。
- ・そのほか、がん拠点病院ごとに、今後**期待される役割**や取り組む方向性を提案しています。〔がん診療情報 報告書 P.56～58〕
- ・がんと診断された県民が治療や病院を選ぶ際に役立つ**がん診療情報の公表イメージ**を作成しています。〔がん診療情報 報告書 P.62～65〕

### ◆ 対象となっている病院

- ・専門的ながん医療の提供、人員配置、治療実績、相談や安全管理体制等の要件を満たし、国や県が指定している拠点病院等9病院を対象としています。
- ・なお、南奈良総合医療センターは、2016年開院のため、地域がん登録データの分析からは除いています。



### ◆ 今後の予定

- ・奈良県がん情報サイト「**がんネットなら**」を改修し、がん診療情報を県民の皆様に、わかりやすく公開する予定です。

#### ★取組の特長★

がん拠点病院やがん患者会等とデータや公表すべき項目について意見交換を行いました。それぞれの立場から、公表すべき診療情報のご意見をいただき、公表イメージを作成しています。



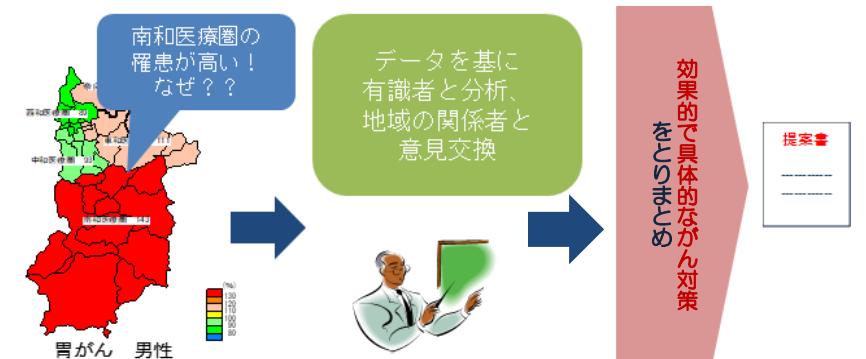
## 2. 地域別がん対策の見える化について（地域別がん対策見える化推進事業報告書・提案書）

### ◆ この報告書でわかること

- ・奈良県のがん種別・圏域別のデータを分析したところ、五條市と吉野郡からなる**南和医療圏では、「肺がん」が男性で罹患率が高く、男女とも死亡率が高いこと、「胃がん」が男女ともに罹患率・死亡率が高いこと**が特徴的であると分かりました。
- ・そのため今回は、南和医療圏を対象に、各種のがん関連データ（がん罹患率、死亡率、がん検診受診率、喫煙率、塩分摂取量等）を集計・分析し、地域の課題を明らかにしています。
- ・さらに、南和医療圏のうち、**五條市、大淀町をモデル地域**として選定し、保健センターの保健師や健康づくり推進員などの地域の関係者と意見交換し、地域における効果的ながん対策として、以下の取組を提案しています。
  - ・両市町とも**肺がん検診受診率が低く、進行したがんで診断される割合が高いため、がんを早期に発見するための対策**が必要です。〔提案書 P.2下段〕
  - ・両市町とも**胃がんの罹患率が高いため**、塩分摂取量を減らすなど、がんを予防するための対策をさらに進める必要があります。〔提案書 P.7〕
  - ・五條市では県外でがんと診断される割合が高いため、患者が希望する医療機関で治療が受けられるように、県内拠点病院と県境を越えた医療機関との連携を推進することが必要です。〔提案書 P.6上段/P.7上段〕

### ◆ 対象とした地域

- ・奈良県で、肺がんや胃がんの死亡率が高い南和医療圏を対象とし、協力を得られた**五條市、大淀町をモデル地域**として選定しています。



### ◆ 今後の予定

- ・他の医療圏についても各種がん関連データを分析し、地域の課題に応じた効果的ながん対策を提案します。
- ・南和医療圏では、南奈良総合医療センター開設後のデータ分析を進めます。



#### ★取組の特長★

地域のがん検診担当者、健康づくり推進員などのボランティア等と一緒に、目標と個別施策を論理的に図式化したもの（ロジックモデル）を活用して課題を明らかにし、今後の取組について意見交換しました。